

新聞・テレビでは絶対に報道されない

別冊
宝島
1102

日本タブー事件史

誰も触れない
あの事件の真相

taboo

「雅子妃はうつ病」海外皇室報道の裏事情

レーサーになった「もうひとりのSMAP」の今

執行猶予獲得までの「武富士前会長」裏工作

文藝春秋社が屈した「ユダヤタブー」とは何か

道善だけじゃない「警察裏方ネ」疑惑の本丸

在日コリアン・新井将敬「自殺」の裏側

「薔薇族」廃刊、編集長が明かす「ゲイの世界」

タブーに挑んだ男

精神病

「精神障害者移送『ビジネス』から
見えてくる精神医療の『病巣』」

「病める時代」は比喩表現ではない。周囲を見渡してみると、誰もが実感する。そうした状況する。そこには、多くの人々がジネスに結びつけ、陰にこもりがちな諸問題に新たな取り組みを見せた男がいる。

(構成・文)栗原正和 撮影/金子 靖)

押川剛

(トキワ精神保健事務所・代表取締役)

統合失調症（以前の呼称は精神分裂病）という病気は、現代を象徴する精神疾患だと見える。人格ならびに思考が分裂的になり、社会生活が困難になってしまった側面からつられたのが旧病名精神分裂病だ。この呼称はおどろおどろしいイメージが固定化してしまったため、今は統合失調症に改められた。

症状は陽性のものと陰性のものに大別される。幻聴や妄想にとられ、支離滅裂なことを言うようになり、独語・空笑をしたりするのが陽性症状。そして陰性症状は、感情の希薄化・思考力や集中力そして活力の低下などである。また、他にも食欲異常や不眠、疲労感など、さまざまな身体症状が出ることもある。発症の原因は諸説あり、はつきりとはわかっていない。

差別的な表現として俗に多用されてきた「きちがい」という言葉は、すなわち統合失調症の陽性的症状を指している場合が少なくない。「きちがい」という言葉は残念なことに、それを使用してきた人たちの差別意識が強く反映され、マイナスイメージのレッテルとしていまだに機能してしまっている。「きちがいに刃物」という慣用句も、移法業務を始めた当初の告知チラシ。随所に表現の細かい配慮がうかがえる

株式会社トキワ警備 迷惑サポート・サービスのご案内

当社では、「迷惑メール」「サービス」を行っておりません。
ご不明な場合は、お問い合わせ窓口へお問い合わせください。
お問い合わせ窓口：〒107-0052 東京都港区南青山2222
株式会社トキワ警備
フリーダイヤル
TEL: 03-5542-1111 FAX: 03-5542-1111
E-mail: info@tokiwa.jp
http://www.tokiwa.jp/ja/index.html

こんな時にご利用下さい



ご不明な場合は、お問い合わせ窓口へお問い合わせください。
お問い合わせ窓口：〒107-0052 東京都港区南青山2222
株式会社トキワ警備
フリーダイヤル
TEL: 03-5542-1111 FAX: 03-5542-1111
E-mail: info@tokiwa.jp
http://www.tokiwa.jp/ja/index.html

悪意ある差別的な言い回しとして多用された。ひとつの病気に対し、ここまで差別的な含みが肥大化してしまった言葉は他にはないだろう。その理由は単純である。誰もが「精神障害」をタブー視して白日の下で語らず、陰で連れていなければならず、毛布で簾巻きにするのみひと話として温存してきたからだ。

主にこの統合失調症を始めとした「こころ」「精神」に関する問題を抱いた人たちを、病院に移送するビジネス。そのようなビジネスがあると世に知らしめたのが、押川剛氏（トキワ精神保健事務所・代表取締役）である。家族の依頼を受け、病気を持つ人を説得して連れて行く仕事だ。もちろんそこには、刃物を隠し持ついるような粗暴な者もいれば、いわゆる一般的なイメージの弱気な「ひき」もりもある。多種多様だ。

「ただ、ずっとこの仕事やってきて思うのは、統合失調症は間違いなく増えているということ。私は診断する立場にはないが、実感します。ひきよりもが増加している」と言うけれども、それは統合失調症が増えているから。それだけでなく、ある都市の先生に聞いたら、統合失調症の圈内に入る子は、昔はせいぜい1学年に1人だったのが、今では1クラスに1人はいると言つてしまつた。ひきよりもの子は大概が被虐妄想を持つていて、統合失調症の傾向は多かれ少なかれ、ある。統合失調症だと診断するのは、先生たちの多くが慎重になつてますけどね」

押川氏は元々、警備の仕事に携わっていたが、後輩が統合失調症を発症したことが、移送ビジネスを始めるきっかけになつた。

「中学・高校・大学の後輩で、同じ剣道部だった彼が、目の前のソファーでビヨンビヨンはねだした時には、驚きました。突然発症するものだから、自分が原因なんじやないのかと悩んだこともありましたね」こういった仕事はそれまでも、警備会社やタクシー会社が請け負つていたものである。家族のみならず、病院や健所との共同作業だ。しかし一般的にはほとんど知られていないかった業務である。暴れる者は、当然、力ずくで連れていなければならず、毛布で簾巻きにするなど、どうしても人権上の問題も孕んでいた。

そうした中、単なる力ずくではなく、患者を説得し、合意の上で移送するという方法を、押川氏はメインに打ち出した。そしてメディアでも度々取り上げられるようになり、精神障害者（とりわけ、ひきもり状態の疾患者）の移送がいろいろな意味で注目を浴びるよになつたのである。

「移送」という言葉も、私のところが最初に使い始めた。弁護士と話していく、それまで搬送と言つていたものを移送の方が妥当だらうという結論で使うよになつたんです。いまでは公文書でも使われる言葉になりましたね。……で、いちばん最初にこのビジネスを立ち上げようと思つて、病院に営業をかけてみたら、すでに長い付き合いがあるタクシー会社があるので……と言われました。病院ことに一社ずつ契約タクシー会社があつて、直通の電話番号も登録してあつたります。こういうことでビジネスが成り立ついるんだなあと驚きました。それで、タクシーベージに広告を載せてみたら、もつと驚きましたね。50件ぐらい問い合わせが殺到した。広告を載せるまでも、普通より苦労が多かつた。言葉の表現で差別的にならないよう何度も原稿を修正しました。それでウチがタクシーベージに載せたら、その後の発行分からドーンと、他の警備会社の同じ業務請負の広告が入るようになつた。ああ……こいつらがやつてたんだなとその時初めて知つたわけです」

当初、まだ移送の経験がなかった押川氏は、研修といふかたちで地元の保健所にボランティアの無償協力を申入れる。

「1年足らずで、150件ぐらい来ました。保健所にはそれだけ相談が殺到しているつてことです。これは普通の仕事じゃないな……」と思つて、もう経験積んで、気合入れてやるしかない！」と決心しました。それで、いちばん最初の現場で衝撃を受けましたね。依頼をしてきた方は大手企業の社員で、弟を移送したいと言う。その弟は60歳過ぎの母親と一緒に住んでるんだが、その家に兄が入れない状態がずっと続いてるという話でした。それで、裏から回つてガラス割ってカギ開けて入つてみると、中は昭和40年代ぐらいで時間が止まってる。何もかも古びていた。それで2階に上がつて行ってドアを開けたら、すごい異臭。布団から何から全部黄ばんでる中に、60過ぎの母親がいて、浴衣の前がたらしくはだけてるわけです。息子と布団の中で抱き合つてたのがすぐわかりました。……近親相姦ですよ。突然人が入つてきて、ものだから、最初驚いた顔してましたが、兄が来るとき、弟が抵抗を始めた。それを兄が羽交い絞めにして、「何してる！早く手伝え！」と私の方に言うわけです。とりあえず車に乗せて何とか移送しました。初めての移送体験で、一週間ぐらいいこわくて痙攣が止まりませんでしたね。あんなに力くじやなくとも、何とかできるんじやないかとは思いました。

強制拘束というかたちをどうぞ、患者を説得して連れて行くというスタイルを売りにしたこともあり、押川氏の移送ビジネスは、順調に軌道に乗つて行く。そして、それまでアンダーグラウントに押し込められていた業務を、オープンな場所に引き出す結果となつた。だが、目立つと、批判を受けることにもなる。これは日本の常だ。

オープニングなビジネス展開

精神医療の現場で

「人権団体からのクレームは一切ないです。参議院で民主党の櫻井議員が質問したこともあったけれども、法的にも問題なし」という政府見解が出ました。ただ、ウチが批判されるのは、やはり料金ですね。それもオープ

ンなビジネスとしてやってるからこそだと思ってます。この分野はしっかりビジネスとして割り切つていかないと收拾がつかない。私のところは契約と同時にお金をもらう。これは我々自身への追い込みでもあるんです。患者さんとか家の状況とか聞くと、やめたくなっちゃう現場ばかりだから。今回やめよう……という逃げを打つないようにする。覚悟を決めないとできない仕事なんです。中には半年かかる仕事もある。「こういうのはもう見積もりの段階で失敗なんですが、やらなきゃならない。一ヵ月ぐらいでできるかなと思っていたら、病院といふ病院が全部ダメ出してきて大損しちゃうこともある」

同業者からの風当たりも強いが、料金体系について、押川氏は根拠のあるものだと言う。病院が全部ダメ出してきて大損しちゃうこともある」というのは、精神科医はお茶やお華と同じで流派があつて、10人いたら10通りの診断とかでちやつたりするわけです。ど

うつてする家族は、カタキの頭したヤクザみたいな人だつたりする。家族の本気度の問題です。300万出すような家族は、それだけの結果が残せる。いま、そういう顧客がウチは多いです。つまり、息子のために仕事を休めない人。たとえば総理大臣が、自分のひきこもりの息子のために国の大重要な仕事をキヤンセルするわけにはいかないでしよう？ あと、ヒアリングから尾行から何から全部やるから、どうしても高い報酬になつてしまふ。ひとつひとつ親御さんと一緒に打ち合わせを繰り返しながら、綿密にやつていく仕事なんです。事前に患者さんに会うわけじゃない。病院が受け入れますよつて段になって、初めて会うことになる。同業者でも、ドアをドンドン叩いたりして警察沙汰になつてるケースが多い。ウナの金額は確かに批難されますが、高くなかった

やれないシステムでやつてゐんです」

ある著名な精神科医に患者の移送依頼を受け、それがトラブルに発展したこと也有った。その精神科医は、押川氏を「ヤクザ」と断じ、マスコミに向け批難のFAXを送信したと言う。押川氏と精神科医、双方の言い分は微妙に食い違うが、結局のところこの事件の背景には、「余計なことしないで言われた通りにいたた患者を指定した病院に運ぶだけでいい」と言う精神科医と、自分のスタイルでやろうとした押川氏の、基本的な考え方の齟齬があつたようだ。

このあたりは、「ここを病む人を取り巻く複雑な状況を端的に現している。

「精神科医はお茶やお華と同じで流派があつて、10人いたら10通りの診断とかでちやつたりするわけです。ど

うつてする家族は、カタキの頭したヤクザみたいな人だつたりする。家族の本気度の問題です。300万出すような家族は、それだけの結果が残せる。いま、そういう顧客がウチは多いです。つまり、息子のために仕事を休めない人。たとえば総理大臣が、自分のひきこもりの息子のために国の大重要な仕事をキヤンセルするわけにはいかないでしよう？ あと、ヒアリングから尾行から何から全部やるから、どうしても高い報酬になつてしまふ。ひとつひとつ親御さんと一緒に打ち合わせを繰り返しながら、綿密にやつていく仕事なんです。事前に患者さんに会うわけじゃない。病院が受け入れますよつて段になつて、初めて会うことになる。同業者でも、ドアをドンドン叩いたりして警察沙汰になつてるケースが多い。ウナの金額は確かに批難されますが、高くなかった

同様に、押川氏は臨床心理士についても首をひねる。「臨床心理士も、ウチの会社にこいつてお金出して雇つたりしたけど、彼らはビジネスにはならない技能だと思いました。正直言つて、役立たずでしたね。【ヒュニケーションの立つ場所が、プラスマイナスゼロ。私なんか人によつて評価が最悪だつたりもするわけで、そこか

